

平成 26 年 2 月 23 日 (日) 施行

第 136 回 日商簿記検定試験 2 級 解説

第 1 問

1. 従来使用していた乗用車の帳簿価額は $\text{¥}2,000,000 - \text{¥}1,800,000 = \text{¥}200,000$
下取価格は $\text{¥}300,000$ より、固定資産売却益 $\text{¥}100,000$
一方、新車代金の支払額から下取価格を差し引くので、未払金は $\text{¥}2,200,000$
2. 法人税等 $\text{¥}2,500,000 + \text{¥}500,000 + \text{¥}700,000 = \text{¥}3,700,000$
仮払法人税 $\text{¥}3,100,000 \times 50\% = \text{¥}1,550,000$ との差額を未払法人税等で処理する。
3. 研究開発のみに使用する実験装置は人件費、材料と合わせて研究開発費勘定で処理する。
4. 新たな約束手形の額面は $\text{¥}3,120,000$
決算の 1 か月までの更改で、 $\text{¥}12,000$ は延長 3 か月分の利息なので、1 か月分は当期分、2 か月分が来期分となるため、月割で $\text{¥}40,000$ は受取利息、 $\text{¥}80,000$ は前受利息となる。
5. 申込期日の到来時以下のように処理されている。

(借) 別段預金	25,000,000	(貸) 新株式払込証拠金	25,000,000
----------	------------	--------------	------------

別段預金を当座預金へ、新株式払込証拠金を資本金勘定と資本準備金勘定へ振り替える。
資本金への振替えにおいて、会社法で認められる最低額は 2 分の 1 である。

第 2 問

1. 総勘定元帳
 - (1) 受取手形勘定
3 行目の貸方と残高より、2 行目の残高が $91,000$
さらに 1 行目の残高と比較すると 2 行目の借方に $50,000$
 - (2) 支払手形
2 行目と 3 行目の残高を比較すると、3 行目の借方に $27,000$
2 行目貸方より No.301 空欄は $28,000$
 - (3) 伝票のうち、受取手形が増加する取引は No.302 空欄は $50,000$
 - (4) 伝票のうち、支払手形が減少する取引は No.203 空欄は $27,000$
2. 得意先元帳
 - (1) 横浜商店
 - ① 1 行目と 2 行目の残高より、2 行目借方は $135,000$
 - ② 横浜商店の取引は No.101、No.303、No.501 である。①より No.501 は $135,000$
No.101 は空欄のため、No.303 の $80,000$ を横浜商店の元帳 4 行目貸方に記入する。
 - ③ 4 行目残高と貸方より、3 行目残高が $318,000$ と推定される。
 - ④ さらに 2 行目残高と比較すると 3 行目貸方に $57,000$ となる。
以上より伝票の空欄は No.101… $57,000$ 、No.501… $135,000$
 - (2) 大阪商店
 - ① 大阪商店の取引は No.103、No.302、No.502、No.503 である。
1 (3)より No.302 は $50,000$ → 4 行目貸方に記入。
 - ② 5 行目の残高と貸方より、4 行目残高が $247,500$ と推定される。
 - ③ No.103 より、4 行目貸方に $20,000$

④ 4行目残高と貸方より、3行目残高が267,500と推定される。

⑤ 4行目残高と3行目残高より、3行目貸方に1,500

以上より伝票の空欄はNo.503…1,500

3. 仕訳日計表

入金伝票

101	(借) 現 金	57,000	(貸) 売 掛 金	57,000
102	(借) 現 金	108,000	(貸) 受 取 手 形	108,000
103	(借) 現 金	20,000	(貸) 売 掛 金	20,000
104	(借) 現 金	100,000	(貸) 借 入 金	100,000
105	(借) 現 金	16,000	(貸) 未 収 金	16,000

出金伝票

201	(借) 買 掛 金	22,000	(貸) 現 金	22,000
202	(借) 買 掛 金	35,000	(貸) 現 金	35,000
203	(借) 支 払 手 形	27,000	(貸) 現 金	27,000
204	(借) 消 耗 品 費	14,400	(貸) 現 金	14,400
205	(借) 未 払 金	11,000	(貸) 現 金	11,000

振替伝票

301	(借) 買 掛 金	28,000	(貸) 支 払 手 形	28,000
302	(借) 受 取 手 形	50,000	(貸) 売 掛 金	50,000
303	(借) 買 掛 金	80,000	(貸) 売 掛 金	80,000
304	(借) 買 掛 金	14,000	(貸) 受 取 手 形	14,000
305	(借) 未 収 金	250,000	(貸) 土 地	220,000
			固定資産売却益	30,000

仕入伝票

401	(借) 仕 入	78,000	(貸) 買 掛 金	78,000
402	(借) 仕 入	119,000	(貸) 買 掛 金	119,000
403	(借) 買 掛 金	1,000	(貸) 仕 入	1,000

売上伝票

501	(借) 売 掛 金	135,000	(貸) 売 上	135,000
502	(借) 売 掛 金	94,000	(貸) 売 上	94,000
503	(借) 売 上	1,500	(貸) 売 掛 金	1,500

第3問

未達事項

(1)	(借) 本店より仕入	172,500	(貸) 本 店	172,500
(2)	(借) 現 金	150,000	(貸) 支 店	150,000
(3)	(借) 支 払 運 賃	40,000	(貸) 支 店	88,000
	広 告 宣 伝 費	48,000		
(4)	(借) 買 掛 金	50,000	(貸) 本 店	50,000
(5)	(借) 支 店	12,000	(貸) 受 取 手 数 料	12,000
(6)	(借) 本 店	90,000	(貸) 売 掛 金	90,000

決算整理事項

(1) 売上原価 → 損益計算書「Ⅱ売上原価」

①期首商品棚卸高は残高試算表より ¥1,019,600 (本店) + ¥680,000 (支店) = ¥1,699,600

②当期仕入高は ¥5,857,000 (本店) + ¥2,460,000 (支店) = ¥8,317,000

③期末商品棚卸高は

本店：¥810,000

支店：¥750,000 + ¥172,500 (未達分) = ¥922,500

このうち ¥517,500 + ¥172,500 = ¥690,000 が本店からの仕入である。

内部利益は 15% であるから、¥690,000 × (0.15 / 1.15) = ¥90,000 を控除する。

¥922,500 - ¥90,000 = ¥832,500

よって期末商品棚卸高は ¥810,000 (本店) + ¥832,500 = ¥1,642,500

(2) 貸倒引当金

受取手形残高… ¥1,420,000 + ¥350,000 = ¥1,770,000

売掛金残高… ¥1,060,000 + ¥560,000 - ¥90,000 (未達事項(6)) = ¥1,530,000

貸倒引当金は (¥1,770,000 + ¥1,530,000) × 4% = ¥132,000

貸倒引当金繰入額は ¥132,000 - (¥28,000 + ¥15,000) = ¥89,000

(3) 減価償却費

①本店

(a)建物 (¥4,000,000 - ¥400,000) / 30年 = ¥120,000

(b)備品 (¥1,000,000 - ¥150,000) × 0.15 = ¥127,500

②支店

(a)建物 (¥800,000 - ¥80,000) / 30年 = ¥24,000

(b)備品 (¥400,000 - ¥111,000) × 0.15 = ¥43,350

以上より、減価償却費は ¥314,850

(4) 支払運賃

(借) 前払費用	58,000	(貸) 支払運賃	58,000
(借) 支払運賃	21,000	(貸) 未払費用	21,000

また、未達事項(3)より

¥136,000 + ¥109,000 + ¥40,000 - ¥58,000 + ¥21,000 = ¥248,000

(5) 支払利息

(借) 支払利息	4,000	(貸) 未払費用	4,000
----------	-------	----------	-------

¥24,000 + ¥4,000 = ¥28,000

(6) 受取手数料

(借) 未収収益	35,000	(貸) 受取手数料	35,000
----------	--------	-----------	--------

また、未達事項(5)より

¥161,000 + ¥109,200 + ¥35,000 + ¥12,000 = ¥317,200

その他の金額

(1) 給料

¥1,860,000 + ¥936,000 = ¥2,796,000

- (2) 広告宣伝費
未達事項(3)より
 $¥449,400 + ¥158,000 + ¥48,000 = ¥655,400$
- (3) 水道光熱費
 $¥95,000 + ¥51,000 = ¥146,000$
- (4) 仕入割引
 $¥18,000 + ¥10,700 = ¥28,700$

第4問

- (1) 素材@ $¥1,500 \times 500\text{kg} = ¥750,000$ 及び工場消耗品 $¥40,000$ を掛けて購入
材料副費は予定配賦額を計上
- (2) 予定配賦額 $¥63,200 -$ 実際配賦額 $¥80,000 = \Delta ¥16,800$ (借方差異)
- (3) 直接作業時間 906 時間 @ $¥1,200 \times 906 \text{ 時間} = ¥1,087,200$ → 仕掛品
間接作業時間(20+10)時間 @ $¥1,200 \times 30 \text{ 時間} = ¥36,000$ → 製造間接費
- (4) 予定配賦率 $¥40,608,000 / 11,280 \text{ 時間} = @ ¥3,600$
直接作業時間を配賦基準とするので、予定配賦額は $@ ¥3,600 \times 906 \text{ 時間} = ¥3,261,600$
- (5) 製造間接費配賦差異 予定配賦額 $¥3,261,600 -$ 実際発生額 $¥3,328,000 = \Delta ¥66,400$ (借方差異)
- ① 予算差異
当月の予算額は $¥40,608,000 / 12 \text{ ヲ月} = ¥3,384,000$
 $¥3,384,000 -$ 実際発生額 $¥3,328,000 = ¥56,000$ (貸方差異)
- ② 操業度差異
基準操業度は $11,280 \text{ 時間} / 12 \text{ ヲ月} = 940 \text{ 時間} / \text{月}$
(直接作業時間 906 時間 - 基準操業度 940 時間) $\times @ ¥3,600 = \Delta ¥122,400$ (借方差異)

第5問

1. 全部原価計算による損益計算書

- (1) 売上高 $¥64,000 \times 1,116 \text{ 個} = ¥7,142,400$
- (2) 売上原価と配賦差異
- ① 加工費の予定配賦額 $(¥1,800,000 + ¥2,400,000) / 1,200 \text{ 個} = @ ¥3,500$
 $@ ¥3,500 \times 1,116 \text{ 個} = ¥3,906,000$
- ② 実際発生額
材料費 @ $¥1,000 \times 1,116 \text{ 個} = ¥1,116,000$
加工費 変動費 + 固定費 = $(¥1,500 \times 1,116 \text{ 個}) + ¥2,400,000 = ¥4,074,000$
- ③ 配賦差異
 $¥3,906,000 - ¥4,074,000 = \Delta ¥168,000$
- 以上より
売上原価…材料費 + 加工費配賦額 = $¥1,116,000 + ¥3,906,000 = ¥5,022,000$
配賦差異… $¥168,000$
- (3) 販売費
変動販売費@ $¥500 \times 1,116 \text{ 個} = ¥558,000$ より
 $¥558,000 +$ 固定販売費 $¥280,000 = ¥838,000$

2. 直接原価計算による損益計算書

(1) 売上高 $\text{¥}64,000 \times 1,116 \text{ 個} = \text{¥}7,142,400$

(2) 変動費売上原価

(原材料費@ $\text{¥}1,000$ +変動加工費@ $\text{¥}1,500$) $\times 1,116 \text{ 個} = \text{¥}2,790,000$

(3) 変動販売費

@ $\text{¥}550 \times 1,116 \text{ 個} = \text{¥}558,000$

(4) 固定費

固定加工費 $\text{¥}2,400,000$ +固定販売費 $\text{¥}280,000$ +一般管理費 $\text{¥}720,000 = \text{¥}3,400,000$